

国指定史跡

住吉貝塚



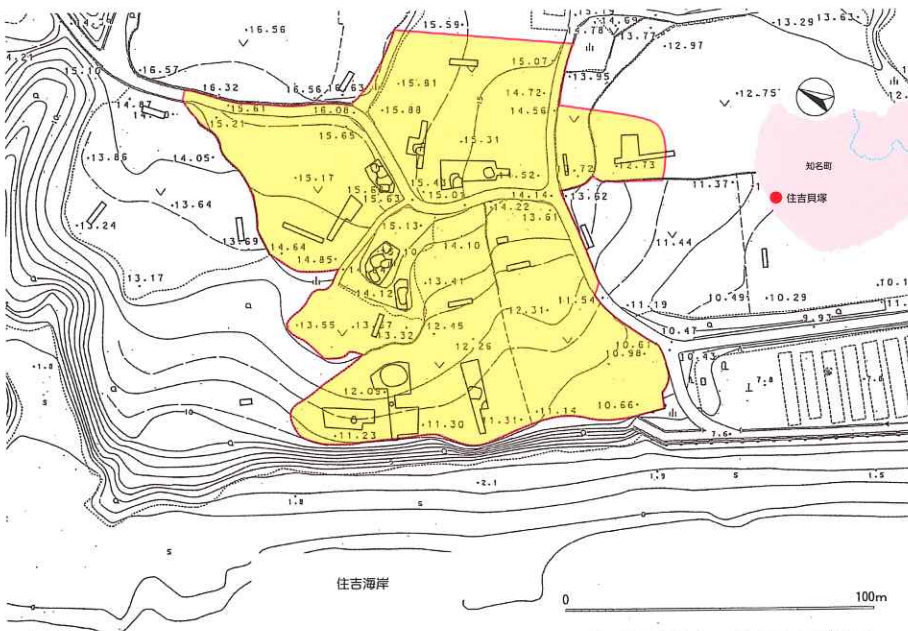
知名町教育委員会

住吉貝塚とは？

住吉貝塚は、知名町の西側、住吉字兼久・船藏にある縄文時代後期～弥生時代初頭（約4,000年から2,000年前）の遺跡です。最初の調査が行われた昭和32年には、石組住居跡などが発見され、不明な部分が多かった奄美諸島の先史時代の一端を明らかにしました。

遺跡は標高約12m～15mの海岸段丘上にあります。目の前にはリーフが広がり、南には与論、沖繩、南西には伊平屋島を見ることができます。

知名町では平成13年から遺跡の範囲を確認し、今後の保存活用に役立てるため範囲確認調査を実施しました。調査の結果、住居跡や土器、石器、貝、骨製装飾品が多数出土し、集落の様子や自然環境がわかってきました。



住吉貝塚の位置と範囲



沖永良部島の位置



住吉貝塚航空写真

考古年表

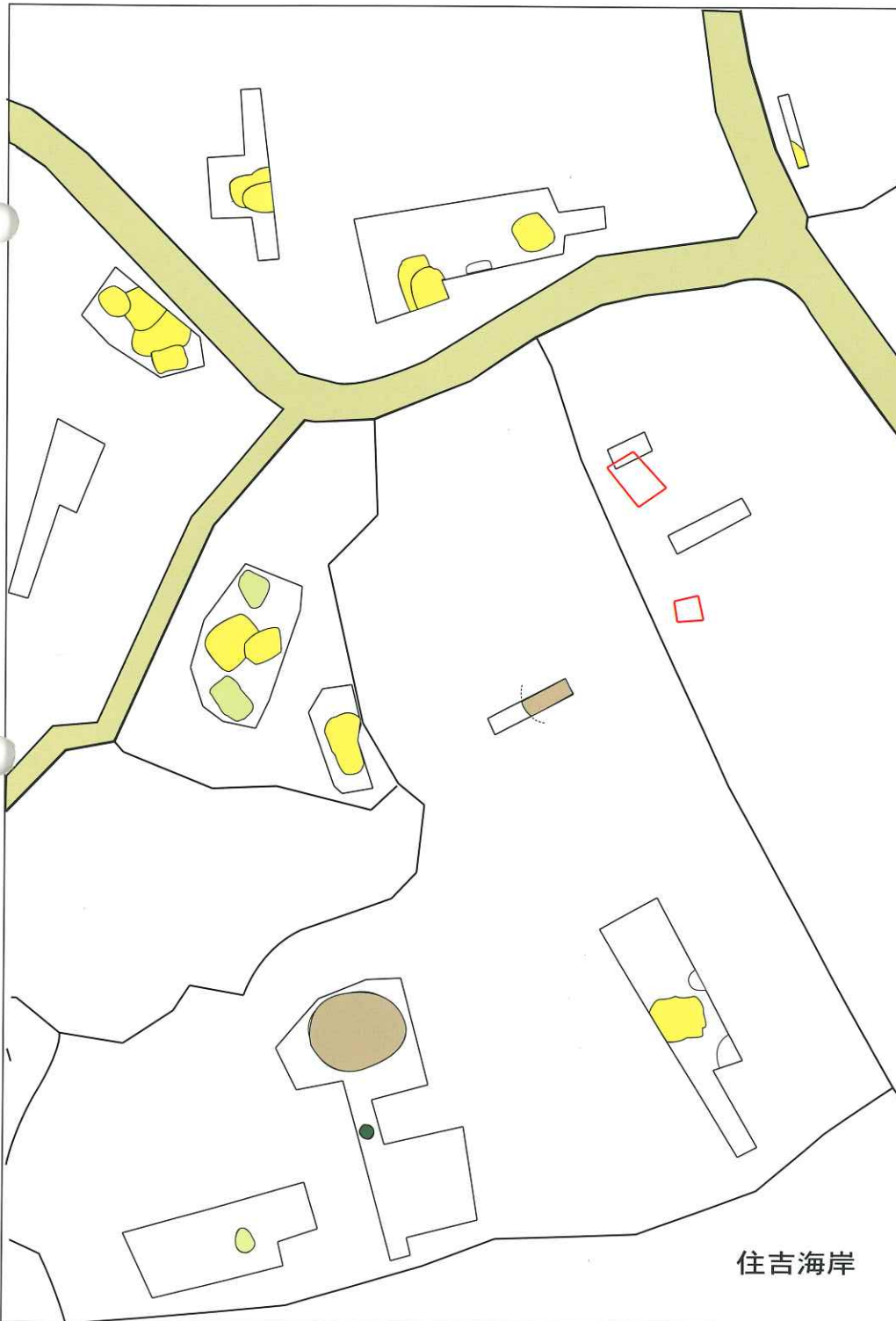
時代	年代(年前)	日本の主な出来事	主な遺跡 (●県外 ◆沖永良部)
旧石器	25,000		天城遺跡(伊仙町) 始良カルデラ大噴火
	13,000	土器や弓矢を使い始める	
縄文	10,000	日本列島がほぼできあがる	上野原遺跡(霧島町)
	6,000	縄文海進	◆中甫洞穴(久志検) ◆神野貝塚(大津勘)
	5,000	火炎土器がつくられる(新潟)	●三内丸山遺跡(青森県)
	4,000	大きな貝塚がつくられる	◆志喜屋武当遺跡(住吉)
	3,000	遮光器土偶がつくられる(東北)	宇宿貝塚(奄美市) ◆石原遺跡(余多) ◆住吉貝塚(住吉) ◆浜須B遺跡(田皆) 面縄貝塚・犬田布貝塚・喜念貝塚(伊仙町)
	2,300	倭国大乱 この頃卑弥呼が邪馬台国を治める	◆友留遺跡(住吉) ●吉野ヶ里遺跡(佐賀県)

※遺跡は主な時代を掲載しています。

住吉貝塚の住居跡

住吉貝塚では、これまでの発掘調査で14基の竪穴住居跡が発見され、縄文時代の終わり頃から弥生時代の初めにかけて人々が継続的に生活していたことがわかってきました。住居跡はお互いの重なりや出土する土器の違いからどのような順序で作られたのかを知ることができます。

このように昔の集落の移り変わりがわかる遺跡は、奄美・沖縄諸島でも数少なく縄文時代の集落を具体的に知ることができる重要な遺跡です。



	住居跡	14基
	土坑	3基
	集石	1基
	混貝層	2カ所
	九学会調査地点	
	トレンチ（試掘坑）	

いこう 遺構

昔の人々が地面を掘ったりしてできた生活の跡で、竪穴住居跡などです。

いぶつ 遺物

昔の人々が使っていたもので、土器や石器、貝製品などです。

いせき 遺跡

遺構や遺物が発見された場所です。

住吉貝塚の遺構

住吉貝塚を構成する遺構

たてあなじゅうきよあと 竪穴住居跡

竪穴住居跡とは、地面を掘って、その上に屋根をつけたもので昔の家の跡です。住吉貝塚では、竪穴の周囲に石灰岩のないもの（縄文時代後期）、周囲に石灰岩を配置するもの、周囲に石灰岩がまばらに配置するものなどいくつかの種類があり、時期により形態が変化してようです。



3号・4号住居跡検出



6号住居跡

どこう 土坑

土坑とは、地面に掘り込まれた穴のことで、いろいろなかたちや大きさがあります。住吉貝塚で土坑としているものの中には住居跡の可能性もあるものもあります。



1号土坑

しゅうせき 集石

集石とは、石をたくさん集めて焼き、その中に肉などを入れた昔の調理場だと考えられています。



集石

住吉貝塚で発見された遺物 いぶつ

土器

住吉貝塚では、宇宿上層式土器うしゆくじょうそうしきどきと呼ばれる土器が多く見つかっています。その他にも、文様かどくがつけられた嘉徳Ⅱ式土器なかはるや仲原式土器などいくつかの種類があります。



縄文時代後期の土器



縄文時代晩期の土器(壺)



縄文時代晩期の土器

石器

石器は、木の実などをすりつぶすための磨石すりいし、動物を狩るためのやじりや木を切ったりするための石斧いしおのなどが見つかっています。



すり石・たたき石



せきぞく
石鎌(やじり)



いしおの
石斧

貝製品

貝製品には、腕輪うでわ・ペンダント・ビーズなどの装飾品があります。これらは、魔物から身を守るという考え方から身につけていたのかもしれません。



貝輪(ゴホウラ・アツアゲイ)



貝輪(オオツタノハ)



貝製ビーズ・ペンダント

骨製品

骨製品は、イノシシの牙や骨、サメの背骨、ジュゴンの骨をけずったり磨みがいたり、穴をあけたりして作られます。



かんざし状骨製品



骨・牙製品

住吉貝塚の人々の暮らし

住吉貝塚では、住居跡の竪穴の中から貝や魚骨、動物骨、炭化した木の实など多くの遺物が出土しています。その種類、量を調べることにより、当時の人々の暮らしをうかがい知ることができます。



環境

昔の遺跡周辺の環境は、林の中ではなく、開けた環境であったようです。海岸線は現在とほとんど同じであったと考えられます。

食料

住吉貝塚の人々は、主に狩りや漁、木の実の採集によって食料を得ていたようです。陸ではリュウキュウイノシシという小型のイノシシや木の実をとっていました。イヌの骨が発見されていることから狩りの友や番犬としてイヌを飼っていたことが想像されます。

海からは小型の魚、ウミガメ、貝などを採っています。遺跡から見つかっている小型の貝はダシとして利用されていたと考えられます。



貝



魚骨



動物骨



木の实

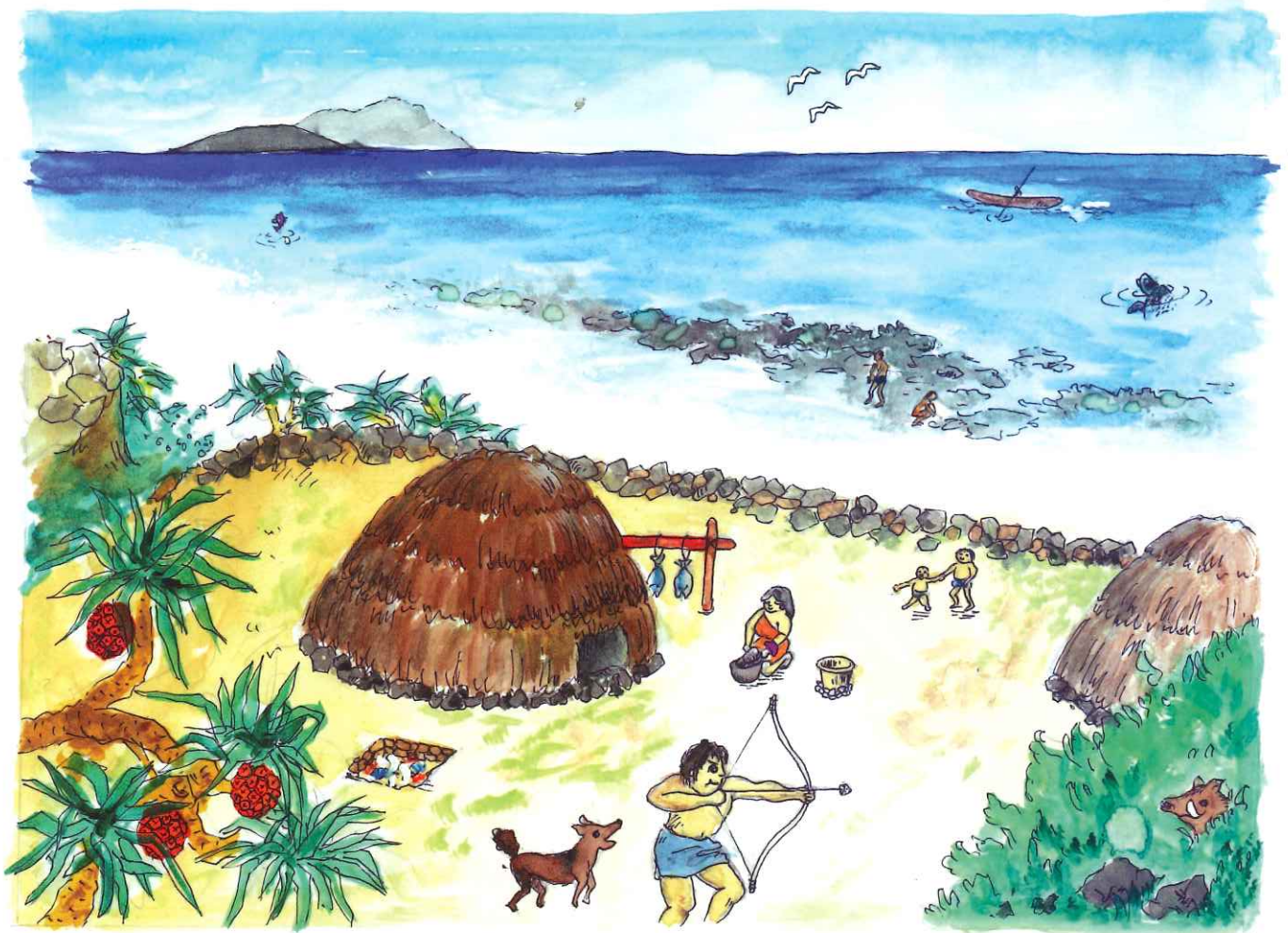
交流

住吉貝塚からは、島外から持ち込まれたと思われるものも見つかっており、他の地域との交流を物語っています。

- ・シカの角……………角だけが見つかり、他の部分の骨が見つかりません。
- ・黒曜石……………天然のガラスの一種で割れ口が鋭く石器の材料となります。南西諸島では佐賀県産のものが多く発見されています。
- ・貝製品……………貝輪の材料となるオオツタノハなどは遺跡から加工前・加工途中のものが発見されていないため持ち込まれた可能性があります。
- ・土器……………鹿児島や沖縄を中心に見つかっている土器も発見されました。昔の人々は、琉球列島を島づたいに行き来していたことが他の遺跡の調査などからも推定されています。住吉貝塚もその通過点として本土や他の島の人々が立ち寄ったのかもしれませんが。



黒曜石



住吉貝塚の様子(想像図)

Q & A

Q 知名町には遺跡が何ヵ所ありますか？

A 知名町には約80ヶ所の遺跡があります。住吉貝塚のような重要な遺跡は保存して守って行かなければなりません。
遺跡は法律で保護されていて、工事をする前には調査が必要です。

Q なぜ遺跡の場所がわかるのですか？

A 畑の耕作などにより土が掘り起こされ、土器などが地表面に出てきているのでわかります。

Q 住吉貝塚の出土品はどこで見ることができるのですか？

A 中央公民館で整理・保管しています。歴史資料室で一部の資料を見ることができます。

住居跡の土器

時代	土器	型式
縄文時代 後期		嘉徳Ⅰ式
		嘉徳Ⅱ式 など
縄文時代 晩期		犬田布式
弥生時代 初期		宇宿上層式
弥生時代 初頭		仲原式

